

清流の国ぎふ

# 2020 地歌舞伎

勢揃い公演

八目

## 東座歌舞伎保存会（白川町）

白川町の旧黒川村には「東座」「春日座」「共進座」という三つの芝居小屋があり、古くから地歌舞伎が盛んに行われていました。

東座は、明治二十二年に舞台部分が完成し、当初は野外で観劇されていましたが、明治三十三年に客席部分が完成し、現在の形となりました。

昭和三十年代には老朽化のため閉鎖されましたが、地域住民の熱意が実り、修復工事が進められ、平成三年に完成しました。修復記念として五代目中村勘九郎文（故勘三郎）によるこけら落とし公演が行われ、これを機に東座名誉館主に就任されました。同年に「東座芸能保存会」を発足し、平成二十五年に「東座歌舞伎保存会」に改名しております。

現在は中村高女師匠の指導の元、地元の子どもたちから大人までが稽古に励み、多くのボランティアの熱意と協力により毎年五月第三日曜日の「東座ふれあい公演」や中学校の文化祭での公演等様々な行事を行っております。これからも地域一体となって長い歴史のある東座の建物と地歌舞伎の保存及び運営に努めて参ります。



## 蛭川歌舞伎保存会（中津川市）

中津川市蛭川地域では、江戸時代より盛んに地歌舞伎が行われており、神社舞台などで演じられていました。明治三十四年には初代「蛭子座」が落成し、昭和二十四年に、現在の場所に二代目蛭子座として移転新築されました。二代目蛭子座の外観は当時の御園座（名古屋市）を模したモルタル塗りでシンメトリーを意識したモダンなものとなっており、平成の大改修を経て、劇場型公民館として現在も使用されています。

蛭子座で盛んに演じられた地歌舞伎は人口流出などを理由に、昭和四十四年を最後に一時途絶えましたが、平成元年に地元有志が「蛭川歌舞伎保存会」を結成し、翌年から舞台を再開しました。以後毎年公演会等の活動が続けています。定期公演は毎年十月の第三日曜日に蛭子座で開催しており、会員による演目の他、小中学生の子ども歌舞伎も披露しています。

岐阜の宝物である地歌舞伎を地域の子どもたちに継承するとともに、人と人の絆づくりを目的に、地域の活性化につながることを目指し、これからも活動を続けて参ります。



### 新型コロナウイルス感染予防対策について

安心して参加いただくために、皆様のご協力をお願いします。

- ・発熱や風邪症状のある方は、参加をお控えください
- ・マスク着用の厳守（マスク非着用の方はご入場できません）
- ・手指消毒及び検温の実施（37.5℃以上の方はご入場できません）
- ・ソーシャルディスタンスの確保
- ・出演者への声援や歌唱、入り待ち、出待ちの禁止
- ・公演中のおひねり、大向こうの禁止

※「岐阜県感染警戒QRシステム」の登録をお願いします。  
ご登録をいただきますと、感染者が発生した場合、同じ日に来訪された方にメールでお知らせいたします。

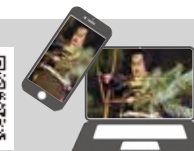
### スタンプラリー実施中



開催期間中、1公演ご鑑賞ごとにスタンプが1つたまります。スタンプ数に応じて素敵なグッズをプレゼント！  
※無観客開催の動画をご覧になった方はお申し出ください。

### ぎふ清流文化プラザ YouTubeチャンネル

本公演の様子を収録し、後日配信します。



## 地歌舞伎とは

地歌舞伎とは、地元の素人役者たちによって演じられる、地域に根付いた歌舞伎です。江戸や上方で盛んであった歌舞伎は、地方を巡るプロの旅役者によって全国各地に広がり、それに憧れた地方の人々が神社の祭礼で演じたり、芝居小屋を造ったりと、自ら楽しむようになりました。現在、岐阜県には30を超える地歌舞伎保存団体が存在し、9軒の芝居小屋が各地に現存しています。岐阜県は全国有数の地歌舞伎が盛んな地であり、芝居小屋をはじめ、毎年各地で定期公演が開催されています。江戸時代から伝わる演目や振付が大切に受け継がれ、親しまれている岐阜県の地歌舞伎をご堪能ください。

清流の国ぎふ

# 2020 地歌舞伎

勢揃い公演

八目

2021年8月8日（日）

◆開演 14時00分（開場13時00分）

◆会場 ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール

◆上演外題・出演

14時00分（45分）

菅原伝授手習鑑

車曳の場

東座歌舞伎保存会（白川町）

15時10分（90分）

絵本太功記 十段目 尼ヶ崎閑居の場

蛭川歌舞伎保存会（中津川市）

◆終演 16時40分（予定） 演目・上演順は変更となる場合があります。



### イヤホン同時解説

演目の見どころやあらすじについて、分かりやすく解説します。

古典芸能解説者 葛西 聖司氏



主催／岐阜県・（公財）岐阜県教育文化財団

協力／岐阜県地歌舞伎保存振興協議会

令和3年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業  
ねんりんピック岐阜2021応援事業

菅原伝授手習鑑

車曳の場

東座歌舞伎保存会(白川町)

時は後醍醐天皇が治める平安時代。菅丞相すがわらのみことね(菅原道真)の所領、河内の佐太村で三つ子が生まれます。それを聞いた菅丞相は、自らの好きな木にちなみ、松王丸、梅王丸、桜丸と名付けました。その後、松王丸は藤原時平、梅王丸は菅丞相、桜丸は斎世親王に舎人として、奉公することになりました。

左大臣の藤原時平は、右大臣の菅丞相を陥れようと画策し、菅丞相は無実の罪で大宰府へ流罪となります。

演目はここから始まります。左大臣時平の陰謀により、菅丞相、斎世親王は失脚させられ、主人を失った梅王丸と桜丸は浪人となってしまします。

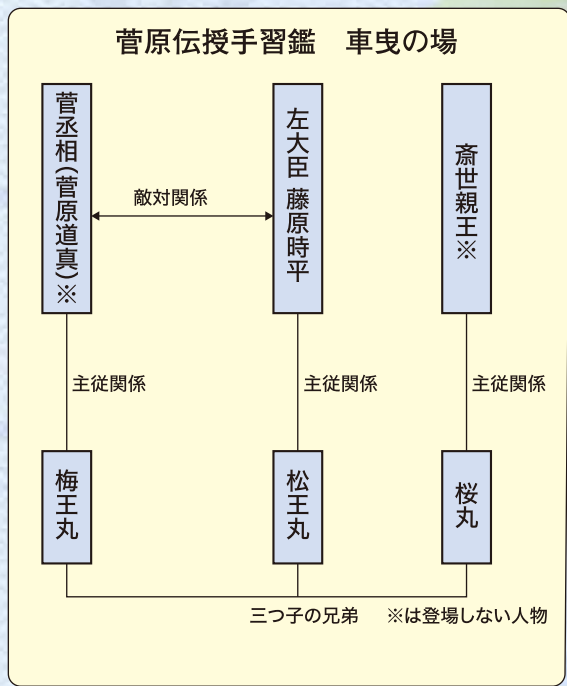
都から近い吉田神社にて梅王丸と桜丸がたまにたま出会います。桜丸は自分が菅丞相流罪の原因を作ったことを悔み切腹を覚悟しているが、もう少しで父の七十歳の賀の祝が済むまでは留まっていると語ります。梅王丸は菅丞相の奥方の行方が分からず、筑紫へ捜しに行こうかと悩んでいるが、父の賀の祝も近いのでどうしたらよいかと語ります。

そこへ敵の時平の牛車が道を通りかかります。

桜丸と梅王丸は今こそ仕返しをと牛車に襲い掛かりますが、二人の前に立ちはだかったのは時平に仕える三つ子の兄弟松王丸。三人は牛車を挟んでもみ合いになります。

その時、牛車の中から怒る時平が姿を現します。凄まじい威厳を放つ時平に桜丸と梅王丸はすくみ上ってしまいます。その様子を見て松王丸は二人を斬ろうとしますが、時平は神聖な境内を血で汚すことを嫌い、また、松王丸の忠義に免じてと二人の無礼を許します。

三兄弟は、父親の賀の祝が済んだ後に決着をつける約束をし、その場を後にするのでした。



絵本太功記 十段目 尼ヶ崎閑居の場

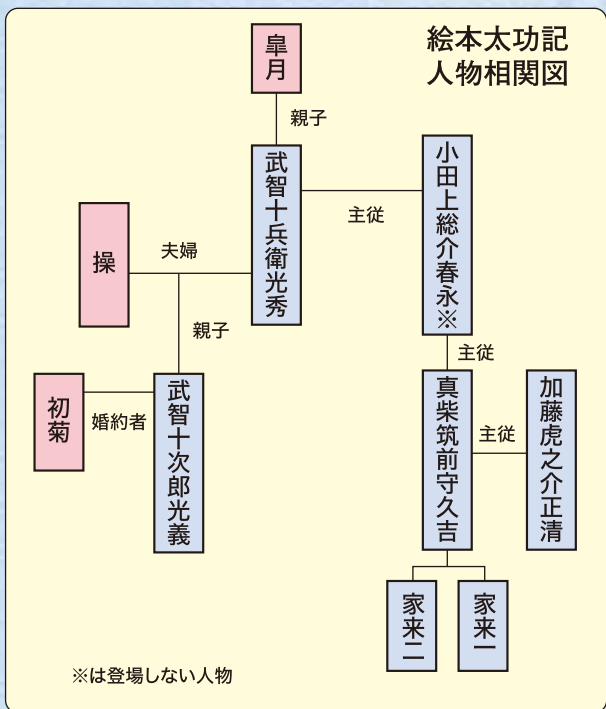
蛭川歌舞伎保存会(中津川市)

武智十兵衛光秀の子 武智十次郎光義は、本月初陣の門出を迎えます。出陣前に光秀の母皇月のとりなしにより婚約者の初菊と祝言を挙げました。喜びもつかの間、時が迫り、出陣をする十次郎にすぎる初菊を振り切り、討死を覚悟して戦場へ向かいます。

本能寺において、光秀に、主君 小田上総介春永を討たれた真柴筑前守久吉は、旅僧に扮し、尼ヶ崎にある皇月の住まいに入り込んでいます。このことを知った光秀は、家に忍び込み、持っていた竹槍を襖越しに刺し込みます。手負いを引き出すと、久吉ではなく、皇月に竹槍が刺さっていたのでした。騒ぎを聞き、初菊と共に光秀の妻操が駆け付けます。皇月は光秀を諫め、主君(春永)を討ったからだと言え息絶え、操は夫を恨み嘆きます。

そこへ、十次郎が戦場から戻り、敗戦を物語り、家族に見守られながら息絶えます。この重ね重ねの出来事に進退窮まった光秀の前

に、久吉と加藤虎之介正清が現れ、互いの勝負は山崎の戦場で決しようと言再開を約し、別れるのでした。



イヤホン同時解説 葛西 聖司氏



東京都出身。古典芸能解説者。NHKアナウンサーとしてテレビ、ラジオで様々な番組を担当してきた。現在は、歌舞伎や能狂言など古典芸能の解説や講演、また日本伝統文化のセミナーを全国で開催している。「教養として学んでおきたい能・狂言」「僕らの歌舞伎」「文楽のツボ」ほか著書多数。

- ◆ 配役
- 藤原時平 藤井守
  - 松王丸 古田治
  - 梅王丸 額田英樹
  - 桜丸 板橋成行
  - 斎世親王 河合秀明
  - 左大臣 藤原時平 日下弘道
  - 菅丞相 菅原道真 日下千穂
  - 梅王丸 東條伸子
  - 松王丸 田口明代
  - 桜丸 徳永紫子

◆ 配役

- 武智十兵衛光秀 大橋義文
- 光秀妻 操 柘植千代子
- 光秀母 皇月 国枝泰穰
- 武智十次郎光義 田口友弘
- 許婚 初菊 柘植万梨乃
- 加藤虎之介正清 田中穂波
- 真柴筑前守久吉 樋田春美
- 久吉 家来一 田口一好
- 軍兵 田口正孝
- 田口一好 田口一好

|               |                   |                 |               |                           |                    |
|---------------|-------------------|-----------------|---------------|---------------------------|--------------------|
| 協力            |                   | 振付指導 中村 高女      | 下座長唄 杵屋 喜鶴    | 後見 青木 喜久次                 | 着付 松本 真由美          |
| 振付助手 太夫 豊澤 順八 | 振付助手 青木 喜久次 竹本 美芳 | 鳴物 住田 喜久次 鳳川 辰次 | 杵屋 喜朱雀 小野崎 隆賢 | 附け 林 松幸 松本 宙士 松本 茂み 松本 匠平 | 小川 厚子 林 まゆみ 中津川 衣裳 |